

今、いちばん気になる統計は？

政府の税収

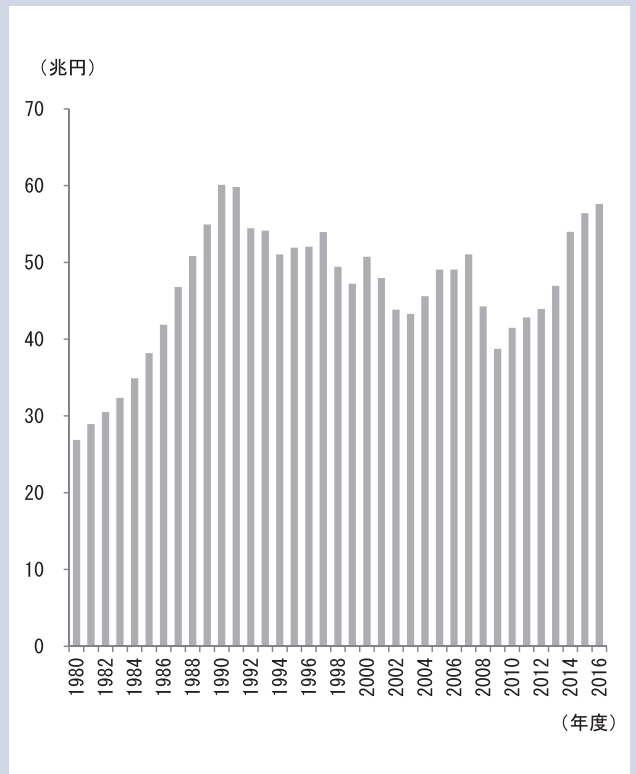
政府の2016年度本予算案において、一般会計税収は57.6兆円と25年ぶりの高水準に達する見込みとなった。2012年のアベノミクス始動以来、消費税率の8%への引き上げに加え、所得税、法人税の明確な増加もあり、税収は着実な増加傾向を辿っている。これに伴って財政赤字も縮小を続け、財政再建が進んできた。

順調に進んできた財政再建だが、年明けに強い逆風が吹いた。それが、株安・円高である。昨今の税収改善は、円安などを追い風とした利益増による法人税収の増加、それに伴う配当税収の増加、株高に伴う株式売買益の増加に支えられてきた側面が大きい。そのため、これが逆回転をはじめると、そのまま税収の下押し圧力となりかねない。

今年の金融市場や景気の足取りが覚束ないと、2017年4月に予定されている消費税率の引き上げが見送られるとの観測もある。財政再建の成否は、景気や金融市場の動向と密接に関係している。

(経済調査部 星野 卓也)

資料 一般会計税収の推移



(出所)財務省資料より第一生命経済研究所作成。
(注)2015年度は補正後予算、2016年度は当初予算の値。

編集後記

この冬は何時もの冬とはだいぶ様子が違う。エルニーニョ現象から11月、12月と記録的な暖冬が続き、このまま季節は流れるのか?と思い始めた1月中旬以降は例年通りの寒波到来。最近の気候変動は極端に振れるが自然災害が起きないことを祈りたい。

寒い日があると言っても平均的には暖冬に変わりなく、立春を過ぎて春の便りも各地から聞かれるようになってきた。これだけ暖かいと桜の開花も早いと思われがちだが、そうでもないらしい。蕾自体は前年、葉が落ちる前には出来ているが厳しい冬の寒さがあったこそ開花のスイッチが入り本格的な準備を進めるらしい。だから暖かい冬ではいつスイッチ入れているのかわからず開花もそれほど早くはないようだ。桜は冬の寒さを受けて開花に向けた屈伸運動しているようなものだ。

年明けから金融市場の混乱が続いている。この混乱は何だろう?過去必ずと言っていいほど起きた米国の利上げに伴う単なる調整か。はたまた新しい時代、グローバルにはポストリーマンショック、日本ではデフレ脱却、経済の好循環実現というステージに向けた最後の屈伸なのか。或いは… (H.S)

○第一生命経済研レポートに関するご意見・ご要望は、keizai@dlri.dai-ichi-life.co.jpまでお寄せ下さい。

○本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。